

「ゆめはく」で実施する内容で最も多いのが「むしむしみっけ！」というゲームです。「ゆめはく」には、18の標本箱に鮮やかな色でハート形などに美しく配置された昆虫（寄贈の江田コレクション活用）が並んでいます。参加者は、写真カードを1枚選び、それと同じ昆虫を標本箱の中から見つけ出すというゲームです。同種の昆虫でも羽の模様や形、触角の長さ等ひとつずつちがうのです。大人も子どもも夢中になって探します。友達と競争する子、すべての写真カードを制覇する子、他の会場でもまた来てくれる子、たくさんの大人や子どもが標本を一生懸命見てくれる最高のゲームです。



藤本 真里（自然・環境マネジメント研究部）

“人と自然の会”は、県立人と自然の博物館のボランティアグループとして発足しました。今年で設立から23年目に入り円熟期にあるといえます。博物館職員の方々、研究員の皆様とは密接な関係を保ちつつ、NPO法人として社会に対して責任ある法人として独自性のある自立型の活動を大切にしています。構成メンバーは約70名で活動の中心は65～75歳の方々です。平均年齢が高いのが悩みの種ですが、年齢に負けずに皆さん頑張っています。本会は県立人と自然の博物館を拠点に活動し、来館者の皆さんに喜んでもらえる企画を考え提供しています。

会員の皆さんは、本体の活動に加えてそれぞれが得意分野でサークルを形成しています。その数は、今では11サークルに拡大しています。植物観察会（ウォーキング植物観察）、里山クラ



写真2 古代の会 作品作り

ブ（里山管理）、ネイチャークラフトクラブ（木や竹で作品）、封入標本サークル（標本作製）、かわせみの会（バードウォッチング）、古代の会（組紐や勾玉）、星の会（天体観測）、花工房（しおりやダチョウの卵のストラップ）、むしむしガーデン（農園管理）、パネルシアター（パネル紙芝居）、メダカの学校（水中動物調査）など目的は多種多彩です。長年の活動で蓄積されたノウハウはドリームスタジオなど様々なイベントとして公開しています。定期的なイベントに加えて、最近では受託セミナーあるいは出張セミナー形式での小中学校、子ども会、各種団体からの依頼による開催が増えて、活動の範囲が広がっています。これからも人と自然の博物館と本会が県民に愛される存在になるように願っています。

矢澤 和幸（NPO法人人と自然の会理事長）



写真1 花工房の作品

特集  
「ゆめはく」ゆめはく出動！  
小さな学校キャラバン



姫路市立家島小学校へ向かう移動博物館車「ゆめはく」

